

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

| | |
|----------------------|---|
| 今年度より“環境整備”に取り組む | ✓ |
| 昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む | |

活動団体名：一般社団法人全国わくわく課協会

活動地域：香川県東かがわ市

活動におけるテーマ

『"わくわく"できる、東かがわ流地域循環共生圏づくり』

活動団体×地域について

一般社団法人全国わくわく課協会

香川県の東の端にある「東かがわ市」

東かがわ市



東かがわ市を中心とした、地域活性化団体。
地域内外の方々とさまざまなイベントを企画するとともに、
地域に根付いた活動を行っています。

【実績】

- ・老舗和菓子屋と新商品の共同開発
- ・しろとり動物園とzooワーケーション開始
- ・子どもが主役！子ども商店街を開催
- ・地域のDXを解決するセミナー『デジタルタウン』を開催
- ・多言語観光情報サイト「Guidoor(ガイドア)」に掲載
- ・アニメで地域活性「パペットカルテット」を制作
- ・アニメで観光「パペットカルテット自販機」を設置
- ・EXITと一緒に「EXIT祭り」を開催

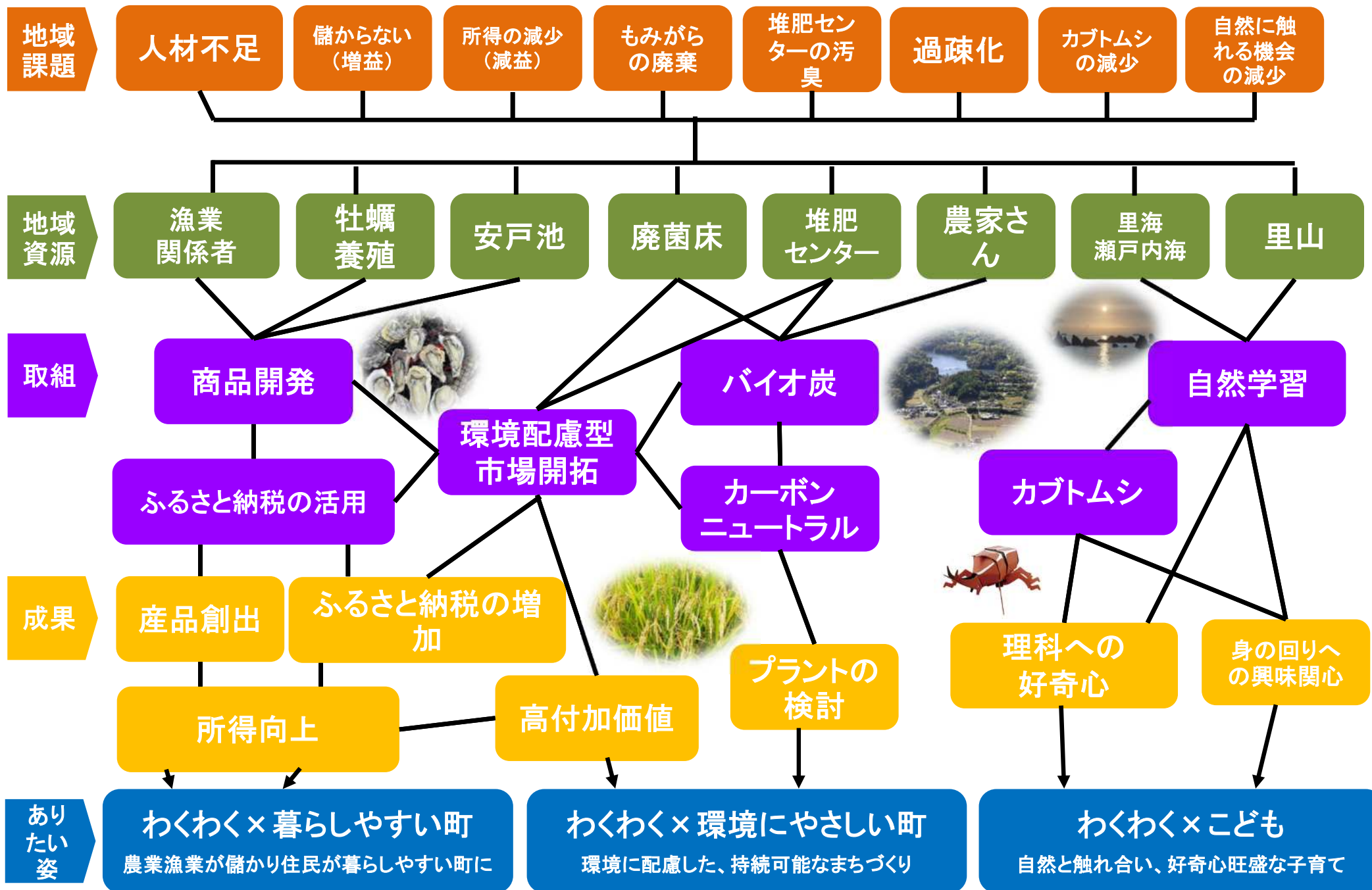
比較的晴天の日が多く、降水量が少ない瀬戸内海特有の温暖で穏やかな気候。

神戸・大阪エリアからは車で約2～3時間と関西圏からもほど近く、高松空港・徳島空港ともに1時間弱とアクセスも良好。

- ・人口27,000人
- ・国内手袋の9割を生産
- ・日本で初めてハマチの養殖
- ・250年を超える醤油蔵「かめびし」
- ・200年続く和三盆
- ・虎の飼育数日本一「しろとり動物園」
- ・日本で唯一の人形劇ミュージアム
- ・海、山に映えるアートスポット



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿



年間スケジュール

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------------|-------------|-------------|--------------|---------------|----|-------------|------------|------------|-----------------|-----------|----------|--------------------------|
| 事業全体の予定 | | | ◆キックオフミーティング | | | | ◆中間共有会 | | | | | ◆成果報告会 |
| 仲間づくり 地域との連携 | ◆農業関係者ヒアリング | | ◆林業関係者ヒアリング | ◆地域のお祭りに参加 | | | ◆地域のお祭りに参加 | | | | | ◆ステークホルダー ミーティング |
| | | ◆行政ヒアリング | | | | ◆漁業関係者ヒアリング | | | ◆東かがわ市実証実験負担金応募 | | | ◆東かがわ市実証実験 負担金採択セレモニー |
| カブトムシ イベント | | ◆教育委員会ヒアリング | ◆カブトムシ関連視察 | ◆カブトムシ関連視察 | | | ◆イベント市長報告 | | | | | |
| | | | | ◆カブトムシイベントを実施 | | | | | | | | |
| 6次産業化 | | | | | | | | ◆水産物の商品化試作 | | | | |
| | | | | | | | | ◆水産物試食会 | | | | |
| | | | | | | | | | | ◆農業実証実験開始 | | |
| | | | | | | | | | | | ◆企業ヒアリング | |

今年度チャレンジした主な取組内容

取組①「仲間づくり・地域との連携」

【活動内容】

事業を始める前から、東かがわ市を中心にマルシェやイベントなどで出店するなど行っていたので、つながりはあったものの、実際に深く話を行う機会は少なかった。そのため、さまざまな話を聞けるように心がけた。

【成果や気づき】

- ・課題であることが日常化しており、実際には課題と考えていなかったりすることがあった。
- ・ただ話を聞くだけで会うのではなく、何かしら相手にもメリットがあるように考えて話をするように心がけた。

【活動の様子（写真など）】



取組②「カブトムシイベント」

【活動内容】

廃菌床を使ってカブトムシを育て、そのカブトムシの糞が堆肥になり農業へ使用する、といったイメージを描き、まずは地域の子どもたちに向けたイベントを実施した。

【成果や気づき】

- ・SDGs教育を目標としていたので、小学生をメインとしていたが、未就学児が多かった。
- ・カブトムシを触ったことのない親子が多かった。
- ・ヤマトカブトムシは事業化(収益性)に課題感。

【活動の様子（写真など）】



取組③「6次産業化について」

【活動内容】

東かがわ市には赤字となっている堆肥センターがあり、その活用をしたいと考え、バイオ炭の導入を進めている。実際に2月より、水稻と野菜へのバイオ炭の実証実験が開始している。

また、安戸池では牡蠣の養殖を進めており、商品化に向けて試作品を行った。イベントのおいての試食会、アンケートを実施し、今後の方向性を探っていく。

【成果や気づき】

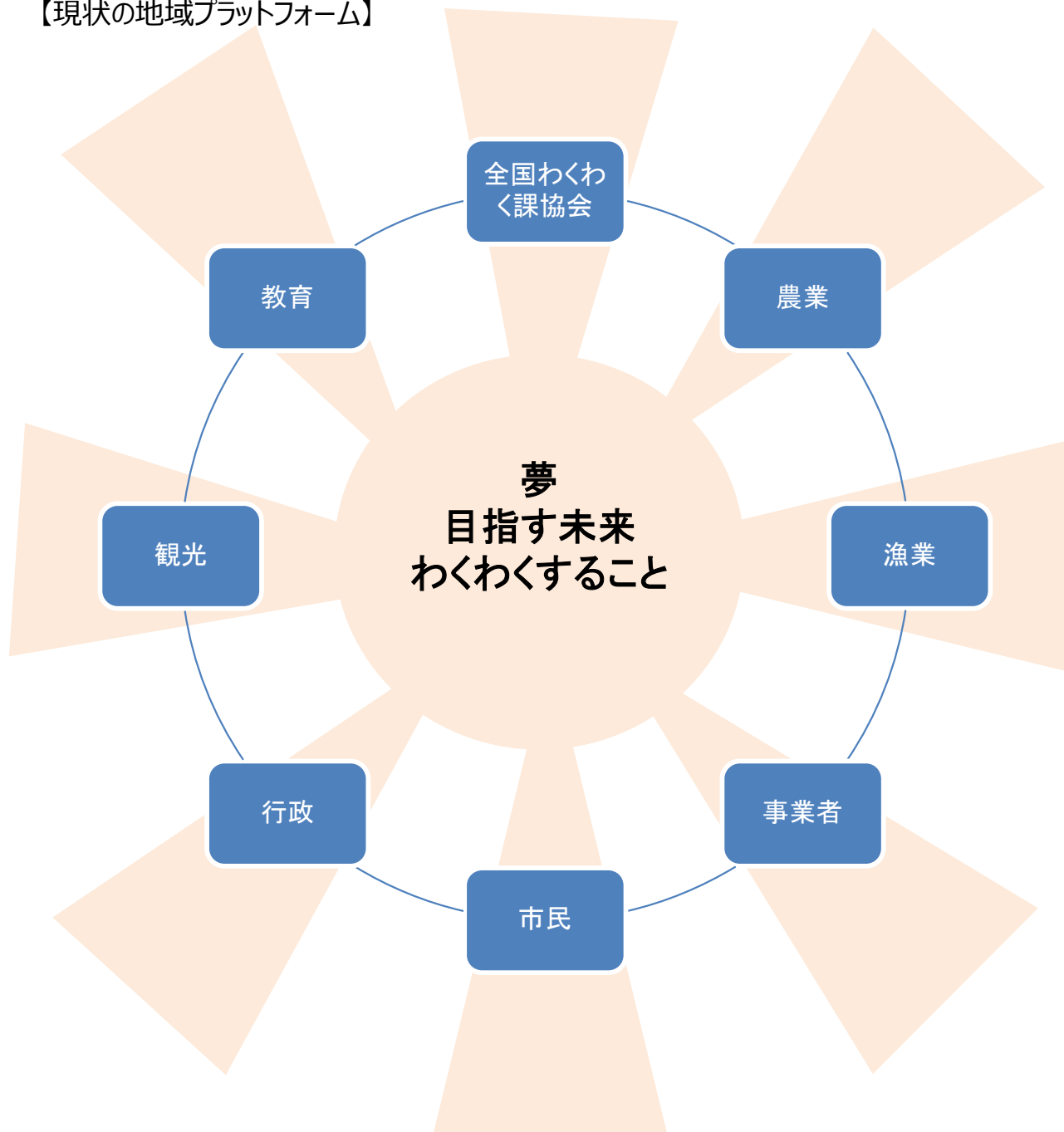
- ・農家さんのバイオ炭に対する需要が高い。
- ・行政との連携をするうちに、私たちの知らないものも多くあった。

【活動の様子（写真など）】



現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】



【地域プラットフォームの変化】

- ・数年前から市内でイベント活動などを行っていたため、幅広く面識があった。
- ・本事業を通して、より深く具体的な目標をもった関係性を築くことができた。
- ・地域の方々、行政の方々と「これをやりたい」「協力してほしい」といえる関係性ができてきた。
- ・私たちが中心にあるのではなく、ポジティブな思いがそれぞれのステークホルダーを動かしていき、実現にむけて形を作っていくのだと思った。

プラットフォーム形成のポイント

・プラットフォーム形成で苦労したこと、工夫したこと

地域のビジョンを描く

- イメージを言葉で伝えるのが難しかった
- 個人間での言葉が違う、専門用語が理解できなかった
- 行政とのやりとりがスムーズにできなかった
-
-

仲間を探す

- 困っていることが日常化しているので聞くのが大変だった
- 関係者へのアポ取りが誰が最適か考えた
- コアメンバーだけでなく、紹介してもらうことも多かった
-
-

体制を整える

- 行政やJAとの連携が難しかった
- 現時点では1つのエリアだけになっており、全市への広がりには時間が足りなかった
- 時間が足りなかった
-
-

全ての項目は
互いに関わり
あっており、
順不同

事業を生み出す

※主に「事業化支援」の段階で実施する項目

-
-
-
-
-

事業を考える

- カブトムシの事業化が困難だった
- 古民家活用において家主さんとの交渉が断念した
- 縦割り行政が難しく感じた
- 堆肥センターの権利関係が複雑だった
-

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

【取組みを通しての成果】

- ・地域の課題やニーズを幅広く具体的に把握することができた。
- ・次年度を見据えて、実証実験を年内にスタートさせることができた。
- ・行政を巻き込み、課題の共有とビジョンを共有することができた。
- ・団体として、新たに環境・SDGs分野に取り組むことで事業の幅が広がった。
- ・古民家活用に際して、家主の意向とビジネス上の速度感のミスマッチが起きた。
- ・地域おこしを行う際に生き物を扱うリスクとして、遺伝子交雑の問題があることを強く認識した。

【新たに見えてきた課題】

- ・決定権が活動団体側にはない場合には、計画通りに進まない場合がある。本事業においては方向転換をしたことで結果的に新たな事業に出会うことができた。計画通りに進まない場合の対処法もいくつか必要だと感じた。
- ・行政との連携が本格的にスタートすることになるので、密な連携を心掛けていきたい。また定期的に報告する機会を持つなど、情報共有をこまめに行うようにする。
- ・行政が「市」だけにとどまらず、「県」との協議や、県農協といった大きな組織との連携も進めていきたい。

活動における今後の展望

・これまでの歩み、成果、課題などをふまえ、今後、どのようなことにチャレンジしていきたいか

地域のビジョンを描く

- 外部への発信方法を考え、伝わるように工夫する
- ビジョンの言語化をする
-
-
-

仲間を探す

- ふるさと納税活用におけるパートナー探しをする
- 実証実験の結果をもとに、仲間探しをする
- ふるさと納税に出す事業者を増やす
-
-

体制を整える

- 行政とのホウレンソウをしっかり行う
- 予算内でのやりくりを考える
- 地域の方々と密に連携をとれるよう整える
-
-

全ての項目は
互いに関わり
あり、
順不同

事業を生み出す

※主に「事業化支援」の段階で実施する項目

-
-
-
-
-

事業を考える

- 地域に還元できるような事業を考える
- ふるさと納税の活用を行う
- 地域資源を活用して、地域の人と商品化を行う
- 明確なKPIを設定して事業を実施する
- 事業を引き継げる体制作りも同時に行っていく